

病院開設25周年



藤田神経内科病院は昭和57年11月1日に開院しました。今年で丁度25周年を迎えますが、地域の皆様にも励まされてここまで来られました。この度、病院(茜会)の歩みを集めました。



医療法改定と共に

福井県立病院に7年間奉職して既に42歳になっていました。決して若くはありませんでしたが一大決心をして当地に開業しました。まだ田圃の真中でありましたから、街の方々からは大変不便がられたものです。開業の翌々年には地域医療計画を骨子とする第一次医療法改定が行われ、もう勝手に病床は増やされなくなりしました。新しい病院としては最後だったのです。医療法改定は、この25年の間に5回行われ、当院はそれに沿って歩んで来たわけです。数年後から閉塞感があつた中で、病院と住宅の中間施設として老健施設が登場して参りましたが、平成元年に県内でも初期に設立しました。そして、このことが大きな飛躍になつ

たことは間違いありません。さらに、13年後に、小規模全室個室という老人の理想郷といわれたグループホームを併設しました。そして、病院の改築をして現在に至っております。職員数は当初は15人が19人と大所帯になって居ますので「順風満帆でしたねえ」と云われますが・・・。

茨の道

大きな事件だけでも三件あり、実は茨の道でした。一つは、老健を建てた 月末の雪がちらつく寒い時でした。83歳のおばあちゃんの失踪事件です。3日間行方不明で、さ

いまい施設内の倉庫にうずくまっておられたので助かったのですが、野外であれば凍え死んでおられたと思います。職員はもとより長畝部落の数

これから

十名、警察犬2頭を動員した警察の捜査と大掛かりなものでした。人を預かることの大変さを感じ思ひ知らされました。二つ目は、平成11年のお盆の日に20名の利用者の方が下痢嘔吐を繰り返す食中毒でした。全国放映され世間を騒がせたという理由で県庁から処罰を受けました。しかし、被害者の家族の方や往診先などでお詫びいたしますと、むしろ励ましのお言葉を頂き涙が出るぐらい嬉しく感じました。そして三つ目は、これは2年前になりますが大

学からの医師派遣が突然中止になるといふ事を告げられ、半年間は神経性の円形脱毛症になりました。いずれの病院も今苦労していますが、わが身にも及んだ時でした。

その他にも事件や事故はありましたが、そのつど職員の頑張り地域の皆様のおかげでここまで来れました。これからも、神経内科の専門性を活かし、医療福祉に専念し、地域に信頼される施設にしていく覚悟でございます。

ご寄付

長村 法男氏
牧野 恵美子氏
より多額のご寄付を頂きました。

開設

あかねの歩み

年代	開設
昭57	藤田神経内科病院
61年	医療法人
平元	老人保健施設 ティーパあかね
4年	在宅介護支援センター
7年	病院増床
9年	痴呆棟 デイケアを増床
11年	居宅介護支援
13年	グループホーム あかねの里
17年	病院増改築
18年	ヘルパー ステーション
19年	新型MRI導入 医学生学外実習始まる

